

表現を仕組む、展によせて

自己表現が破産したあとで、現代美術における「表現」はどのように行われるのだろうか。少なくとも、作品という目に見える物体のうちに「表現」が完結することはありえまい。作品を作るということと同じほどあるいはそれ以上に見るという行為が重要になってくる。「表現」は、そこに現前している物体とそれがもたらすところの見る者の知覚体験とのあいだの、相関関係として成立する。

作家は、これまで展開されてきた美術の総体に対する問いかけを前提として、従来の意味でなら「表現」するのではなくて、「表現」を仕組むことになる。

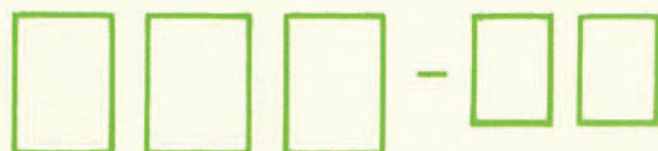
昭和 53 年 11 月

企画委員 岡田隆彦 (美術評論家)

出品作家

糸数 都	小清水 漸	八田 淳
岩本 拓郎	菅 木志雄	樋口正一郎
榎倉 康二	高木 修	堀 浩哉
小野寺才逸	高見沢文雄	山田 桃子
鎌谷 伸一	高山 登	渡辺 哲也
川崎 純照	田窪 恭治	

郵便はがき



《表現を仕組む》展

11月2日(木)～11月12日(日)

AM10:00～PM6:00 入場無料

横浜市民ギャラリー

(関内駅前・教育文化センター内)

主催＝横浜市・横浜市教育委員会